

民主島根

2019年
3.3
第1331号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

県議選(松江・出雲)で2議席守り抜き 島根で野党共闘実現を

出雲・穀田衆議院議員、松江・大平前衆議院議員が訴え

出雲・穀田国対委員長
日本共産党の穀田恵二・国対委員長は2月16日夕、出雲市で街頭演説し、県議選での現有2議席確保、市民と野党の本気の共闘の成功のために参院鳥取・島根選挙区に挑む中林よし子元衆議院議員を野党統一候補として押し上げてほしいと訴えました。



穀田氏は消費税増税問題での志位和夫委員長の論戦を通じて「増税の根拠は総崩れになった」と指摘し、「この怒りを選挙でぶつけ、中止に追い込もう」と力説しました。(写真上) 大平前衆議院議員は「出雲市区選出議員は私以外、原発再稼働推進。負けるわけにはいきません」と訴え、中林氏は「共闘の力で安倍政権にサヨナラを告げる結果を出そう」と決意表明しました。



日立製作所の中西宏明会長(経団連会長)が「もう限界だ」と述べていると紹介し、「原発はもはやビジネスとして成り立たない。原発ゼロの日本へ、松江から一緒に声を上げよう」と力を入れました。尾村氏は「くらし・福祉第一で、原発ゼロの安全・安心の島根をつくらう」と呼びかけました。

小泉純一郎元首相が2月16日、松江市内で講演し、原発ゼロと自然エネルギー推進を訴えました。「島根原発・エネルギー問題県民連絡会などでつくる実行委員会が主催し、約2100人が耳を傾けました。小泉氏は「在任中、原発を推進してきたが、2011年3月の東京電力福島第1原発事故を契機に、脱原発派になった」と述べ、「全原発が停止しても暮らせることは証明された」と指摘。「日本は自然に恵ま

原発ゼロ・自然エネ活用を 小泉元総理が講演

れている。政府が音頭を取れば10年足らずで自然エネルギーの電源構成比率を30%にできる」と強調し、「与野党が協力し、原発をやめよう」と立ち上がるべきだ」と呼びかけました。「脱原発をめざす首長会議」世話人の三上元・前静岡県湖西市長は、オーストリアでは建設済みの原発を国民投票でストップさせたを紹介し、島根原発が立地する島根でも、稼働の是非を問う住民投票を実施するよう提案しました。

2月県議会の論戦から

日本共産党の尾村利成県議は2月15日、一般質問に、大平陽介県議は19日、一問一答質問に立ち、県知事や県執行部をたどりました。(2面に続く)

尾村県議の一般質問

原発ゼロ・再生エネルギー推進を



したことなどを挙げ、「島根県政は『原発ゼロ』『再生エネルギー先進県』の島根県政を掲げ、再生エネルギーを推進するよう求めました。尾村氏は「くらし・福祉第一で、原発ゼロの安全・安心の島根をつくらう」と呼びかけました。

家族農業・小規模農業を農政の柱に

国連は2019年〜2028年を「家族農業の10年」と決定し、家族農業・小規模農業への支援を呼びかけています。尾村県議は、県として本格的に家族農業・小規模農業を農政の柱に位置づけ、その再生・発展に向けた積極的な施策展開を講じる

よう要求。食料自給率の向上、環境保全機能、水資源涵養など農業の多面的機能を正當に評価する直接支払い・所得補償などの積極的支援を求めました。松浦芳彦農林水産部長は「多面的機能が将来にわたり、適切に発揮されることが重要」と答えました。

大平県議の一問一答

保育所の給食費無料化を

10月から幼児教育・保育の無償化が実施されますが、新たに給食費が実費徴収されます(子ども1人当たり・4500円程度)。大平県議は「給食も保育の一部であり、給食費も含めて無償化にすべき」と強調。保育所の給食費の無料化はもとより、子育て支援のさらなる充実を要求しました。

認可保育所の整備を基本に

大平県議は企業主導型保育について、職員の半数が保育士資格を所持しているべきと述べ、給食費も含めて無償化にすべきと強調。保育所の給食費の無料化はもとより、子育て支援のさらなる充実を要求しました。



いればよいとされ、給食の外部搬入も可能となっているなどの保育の質や自治体の関与が薄いなど問題点が多々あると指摘。「保育は行政の責任のもとで認可保育所を基本として実施されるべきだ」と主張しました。

鼓動

「あの人がなかなか成長しない」「あの人はどうしたらヤル気を出してくるんだらう」「などと思ったことはないだろうか？ 営業や人材育成などのビジネスシーンで用いられる現代風の「経験則」に「2・6・2の法則」というのがある▼「2・6・2の法則」とは、人間が集団を構成すると、「優秀なグループ2割」「平均的なグループ6割」「積極的に行動しないグループ2割」の構成になるといわれる。集団で何らかの活動をしていると、2割の人が率先してリーダーシップを発揮し、6割の人がそのリーダーシップに引っ張られて働き、2割の人があまり働かないというもの▼働きの印象が強いアリでも、同様の現象が起き、2割程度はフラフラと遊んでいるといわれている。この働かないアリを取り除いたら全員がせっせと働くのかと思いきや、しばらくすると、残ったアリの2割程度がさぼり始める。逆に、働きのアリ2割だけを集めてスローペースで働くと、凄腕勢いで仕事をしそうな気がするものだが、時間とともに「2・6・2」が形成され、一部が怠け者に変身するらしい▼スポーツ界に例えると、金持ちの球団やクラブチームがお金にモノを言わせてスローペースでチームを結成、でも優勝できない。スター選手を引き抜かれたチームから新たなスター選手誕生で優勝といったところだろうか▼今年のプロ野球セ・パ開幕戦は県議選告示日と同じ3月29日。メンバーのモチベーションを大切に球団に習い、総合力で現有2議席の確保に力を尽くしていきたいと思う。(遠)